



2010年1月

# さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会



## 安城共立クリニック新築移転

医療法人偕行会 安城共立クリニック院長  
坪井 正人

新年明けましておめでとうございます。安城共立クリニック院長の坪井です。というより、名古屋共立病院シャントPTA(狭くなった血管を風船で拡げる治療)の坪井と言ったほうがわかる方が多いかもしれませんね。さて、安城共立クリニックは三河安城駅前から移転し昨年11月9日より安城市大東町4丁目に於いて新築ピカピカの建物で稼動しています。



1,100坪余りの敷地が確保され、クリニックの大きさは35メートル×45メートルで、クリニックの外を一周すると150メートルほどあります。診療スペースは一階部分だけですが、かなり広々とした施設となりました。セントラルクリニック1階から3階までの全てを横につなぎ合わせたぐらいの感覚でしょうか。透析室は入り口から真っ直ぐ通路となり、左右にそれぞれゆったりと42台ずつベッドが配置されています。ベッドはほとんどがチェアベッドで、患者さんたちはそれぞれ好きな姿勢で透析治療を受けています。ベッドサイドの透析用監視装置は全自動と呼ばれる機械となり、透析液を供給する機械も最新式のものが入り、透析液の清浄化を進め、酢酸を含まない最新の透析液を使用することになりました。

安城共立クリニックは平成9年12月にオープンしました。時が経ち建物も傷み始め、駐車スペースが確保できなくなり、また医療機器も最新のものに変えていく必要が生じ、今回の新築移転となりました。新築移転にあたっての僅か2ヶ月の間で、当院のスタッフは見事なまでに新しい機械や電子カルテの操作に習熟し、オープン初日からほとんど問題なく治療を進めることができました。スムーズに移転を行えて、スタッフの方々には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

新安城共立クリニックは、ベッド数が80を超える巨大透析クリニックに生まれ変わりました。これからはますます地域基幹病院の先生・スタッ